

令和7年度 九州国際大学附属高等学校

# 国語 入学試験問題

問題用紙（1～18ページ） 試験時間（50分）

## 注 意 事 項

1. 試験問題は、試験開始の合図があるまで開けないこと。
2. 解答用紙は、体の正面に置いて受験すること。
3. 試験開始後、解答用紙の所定の位置にQRコードを貼り付け、受験番号を受験票通りに記入すること。また、問題冊子の印刷の不具合などに気付いた場合は手を挙げて監督者に申し出ること。
4. 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入すること。
5. 計算機、定規、分度器、アラーム、携帯電話等の使用および物品の貸し借りは禁止する。
6. 試験終了後、解答用紙を表にして筆記用具を隅に置き、監督者の指示に従うこと。
7. 体調不良等の場合は、監督者に申し出ること。
8. 問題用紙は、各自持ち帰ること。

## 字数制限のある問いについては、句読点も一字とします。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これまで、仮想的有能感の高まりが、現代人、特に<sup>①</sup>若者たちの感情の持ち方に変化をもたらしているのではないか、という<sup>a</sup>カンテンで述べてきたが、前に述べたように、動機づけ、意欲、やる気といったものの変化も、仮想的有能感と不可分な関係にあるように思われる。

日本人は「努力信仰」を持つということが、しばしば語られてきた。しかし、現代の若者たちは、昔の人たちのように、努力を重視しているとは考えがたい。努力には、どうしても「忍耐」や「我慢」が伴うが、彼ら自身はむしろ、忍耐や我慢をして努力する姿を冷笑するようになったことは確かであろう。<sup>②</sup>現代の若者たちは熱くなれないのだ。<sup>①</sup>

だからといって、彼らは望ましい結果や勝利を望んでいないわけではない。努力なくしてすばらしい結果を手にすることが、最も「かっこいい」と考えている。<sup>②</sup>

仮想的有能感を持つ人が、通常の意味での達成動機づけの高い人とは思われない。彼らは人前では自分ではできるはずであることを示そうとする。そして成功した場合には、自分はほとんど努力しなかったのに、結構いい線いっていると吹聴<sup>ふいちやう</sup>する。しかし、失敗した場合は、「急に家庭で大事故がおこった」「体の調子が悪くなった」「そもそも意味のないテストなので勉強しなかった」というように、さまざま<sup>b</sup>あげつらう。努力は諸刃<sup>もろは</sup>の剣であり、それによって目標を達成させることも可能だが、努力をつぎ込んだのに失敗した場合は、努力しない場合よりも深く傷つくことになる。現代の若者たちは後者の場合をひどく恐れているように見える。<sup>③</sup>

仮想的有能感の高い人たちは他人の失敗を簡単にバカにするが、それは自分自身が苦勞して物事に取り組んだ経験が乏しいためであるように思われる。自分自身が努力した経験を持つならば、他人の失敗に対しても、もう少し寛容になれるのではなからうか。他者軽視―仮想的有能感―努力軽視―努力経験の乏しさ―失敗―他者軽視は、悪循環しているのではなからうか。すなわち、<sup>③</sup>他者軽視をとおして仮想的有能感を感じると、努力を軽視して実際に努力しないために失敗する、そして、自分の失敗を認めたくないために、先手をうって他者をバカにするという

連鎖である。<sup>④</sup>

仮想的有能感の高い人は、<sup>㉔</sup>ガイして周りと望ましい人間関係が形成されておらず、他者に対しても共感的でない。人の動機づけをどのよう  
に捉えるかは諸説があるが、生まれつきのものだけでなく、後天的に形成される部分が大きいという見方は、多くの研究者に支持される  
であろう。

**ア**、先生や友人に受容され、親密な人間関係が存在すると、最初はいわば、強制的にやらされていたことも<sup>①</sup>（外的動機づけ）、あ  
先生の言うことなら、先生に悲しい思いをさせないためにならがんばろう<sup>②</sup>（取り入れ的動機づけ）と考えたり、勉強することは重要だから取  
り組もう<sup>③</sup>（同一化的動機づけ）というように、動機づけの質が発達していくことが考えられる。

**イ**、初めから他者軽視している人にとっては、このように他者との相互作用の影響で動機づけの質が進化することは、期待でき  
ない。

一方、課題そのものの性質の面白さや楽しさに対しては、認知的側面の問題であり、彼らも対応できる。例えば、先生が子どもに興味を引き  
起こすような課題を提示すれば、仮想的有能感の高い人たちも知的好奇心が喚起され、動機づけられる。すなわち内発的動機づけを喚起させる  
ことはできる。

**ウ**、先生が直接、子どもに密な接触をすることで動機づけるといっても、<sup>㉕</sup>コウミョウな教材を工夫することで動機づけようとする  
ならば、仮想的有能感の高い生徒も十分動機づけられることになる。だが、そのような生徒は、いつしか「課題が面白くなければ勉強しない」  
といった高慢な気持ちも抱くようになると懸念される。すなわち、彼らは社会との相互作用の中で形成された、発達した自律的動機づけを持た  
ないので、好きなことだけはするが、自分にとって嫌いな教科などには、目もくれないようになると考えられる。

日本の教育学者や教育心理学者がこれまで盛んに推奨してきた動機づけとは、<sup>㉖</sup>タンテキに言えば「楽しく勉強させること」であった。子ど  
もたちが勉強しないのは、私たちが楽しく勉強をさせてあげることがないからだ<sup>④</sup>。自罰的に言う立派な先生まで現れる始末である。勉強が、子  
どもの内側から生じるやる気、いわゆる内発的動機づけに支えられることがよいという主張に異論はない。しかし、学習はそれだけでは進まな  
い、ということもまた真実である。楽しく勉強することが<sup>㉗</sup>X、苦しんで勉強することが<sup>㉘</sup>Y という教育そのものが、実は仮  
想的有能感の形成を助長してきたのかもしれない。

（速水<sup>はやみず</sup> 敏彦<sup>としひこ</sup>『他人を見下す若者たち』から）

問一 二重傍線部①～⑤に相当する漢字を含むものを、次の各群の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

① カンテン

- 1 生徒会で新入生カンテイ会を企画する。
- 2 映画を見た後に友人とカンソウを述べ合った。
- 3 カンコウ客を呼び込むイベントを考える。
- 4 将来の夢はケイサツカンになることだ。

② コウジツ

- 1 コウコク費を集めて演奏会を開く。
- 2 この話はコウガイしてはいけない。
- 3 コウエンのブランコで遊んだ。
- 4 この地域はコウギョウがさかんだ。

③ ガイして

- 1 選挙の立候補者がガイトウで演説を行う。
- 2 空を眺めてカンガイにふける。
- 3 サイガイへの備えを万全に行う。
- 4 事件のガイヨウをまとめる。

④ コウミョウ

- 1 彼はタクみにピアノを演奏した。
- 2 雪道で転んだがサイワいにも怪我はしなかった。
- 3 ヒカリ輝く夜空の星を眺めた。
- 4 風邪をひいたが薬がキいて良くなった。

⑤ タンテキ

- 1 私のクラスのタンニンは国語の先生だ。
- 2 私のタンショは心配性などところだ。
- 3 私たちは地域の課題についてタンキョウしている。
- 4 彼女は話し始めたトタン泣き出した。

問二 空欄 ア ウ に入るものとして、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 さらに                    2 しかし                    3 例えば                    4 つまり                    5 また

問三 傍線部①「若者たちの感情の持ち方に変化をもたらしている」とありますが、それはどのような変化ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 現代の若者たちは努力することを軽視し、忍耐や我慢をしても目標に向け頑張る姿を冷笑するようになった。  
2 現代の若者たちは空回りして失敗する人を軽視し、意欲ややる気は無駄なものとして排除するようになった。  
3 現代の若者たちは他者と共感することを軽視し、個人の楽しみや関心を重要なものとして優先するようになった。  
4 現代の若者たちは昔の人を軽視し、信仰や伝統を現代の日本人として望ましくないものと軽蔑するようになった。

問四 傍線部②「現代の若者たちは熱くなれない」とありますが、それはどうしてですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 努力をして結果や勝利を得たとしても、それらはそれほど若者たちにとって魅力的なものではないから。  
2 努力をしてもうまくいくとは限らないので、失敗して深く傷ついてしまうことをひどく恐れているから。  
3 努力をしなくても簡単に結果や勝利を得られる方法が、現代の世の中にはたくさん存在しているから。  
4 努力をした経験がほとんどないために、努力することの素晴らしさについて十分に理解できないから。

問五 傍線部③「他者軽視」とありますが、仮想的有能感の高い人に「他者軽視」が起こるのはなぜですか。筆者が考える理由を文中より二十  
 五字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問六 空欄 

X
---

Y
---

 には対になる言葉が入ります。正しい組み合わせを次の中から選び、番号で答えなさい。

6	X	…罪、	Y	…功
5	X	…功、	Y	…罪
4	X	…悪、	Y	…善
3	X	…善、	Y	…悪
2	X	…損、	Y	…得
1	X	…得、	Y	…損

問七 波線部①～④の事例として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 落ちていたお金を拾って財布に入れようとしたが、母の言いつけを思い出し交番に届けることにした。
- 2 友達のあまりにもひどい裏切り行為に怒りがこみ上げ、見境なく文句を言いながら鞆かばんを投げつけていた。
- 3 まだ家族が誰も起きていない時間に早起きし、高校までの道のりをバスや電車を使わず歩いて登校した。
- 4 高校生になって、相手に喜んでもらえるように、思いやりのある良い行いを心掛けるようになった。
- 5 掃除の時間に友達とふざけていたら、先生に掃除道具を渡されて罰として窓を拭き上げるように言われた。

問八 本文には次の一文が抜けています。入るべき正しい場所を文中の①～④の中から選び、番号で答えなさい。

忍耐や我慢は、彼らからすれば「かっこ悪いもの」の代表格なのである。

問九 次に示すのは、四人の生徒が本文を読んだ後に傍線部④「自罰的に言う立派な先生」について話し合っている場面です。本文の趣旨に最も近い発言を次の中から選び、番号で答えなさい。

1 Aさん 子どもたちが勉強しない理由を、他のもののせいにはせず、自分たちの力量にあると反省している先生は本当に立派な先生だと思ふなあ。私たちのやる気が起るるように楽しく勉強させてくれる先生が増えれば、生徒の勉強嫌いも解消できて、自分に自信が持てる生徒も増えると思ふよ。

2 Bさん そうかなあ。これは筆者が皮肉を込めて「立派な」と言っているんじゃないかな。子どもに楽しく勉強させることが正しいことだと盲目的に信じている先生は、あらゆる場面で子どもが楽しんでるか、ということばかりに目が向いて、生徒一人一人の個性を見落としてしまうと思ふよ。

3 Cさん 私もBさんの「『立派な』は皮肉で使われている」という意見には賛成だな。だけど、筆者が自罰的な先生に皮肉を言うのは、子どもに楽しく勉強させることが正しいと信じている人は、子どもたちに「学び」の本質を教えることができないという点を指摘しているのだと思ふよ。

4 Dさん いずれにしても、先生との信頼関係が必要だとこの筆者は述べていると思ふ。その意味では「楽しく勉強すること」が正しいか正しくないかは別として、自分の非を認められる先生は、私たち子どもの立場から見ると信頼に値する先生だと思ふけどな。

問十 本文の中で繰り返し使われている「仮想的有能感」は筆者の造語ですが、それはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 自分自身はそれほど努力していないのに、それなりの結果がもたらされるため、自分には他者以上の能力があると勘違いすることで得られる有能感のこと。

2 自分自身の努力の結果により裏付けられた有能感ではなく、勝手に他者の能力を低く見積もって自身の方が優秀だと考えることで得られる有能感のこと。

3 自分自身の努力の結果により裏付けられた有能感ではなく、他者からの称賛をたくさん受け、自己を肯定的に思う気持ちが高まることで得られる有能感のこと。

4 自分自身はそれほど努力していないのに、たくさん努力したと口に出して他者に言いふらし、努力したように自身を錯覚させることで得られる有能感のこと。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【ここまでのあらすじ】

北見眼科医院に視能訓練士（患者の眼科検査をしたり、眼の機能を回復させる訓練をしたりする人）として働く「僕」は、病院の同僚である丘本さん（真衣）の友人である玉置さん（遥香）の診察に立ち会うことになる。

「円錐角膜<sup>えんすいかくまく</sup>ってなんですか？」

「この病気について原因はまだ解明されていないのですが、角膜の形が円錐形になっていく病気です。角膜が突出し、菲薄化<sup>ひはくか</sup>、脆弱化<sup>ぜいじやくか</sup>していきます。一人に一人くらいの割合で現れると言われています。角膜が通常とは違うカーブで前に出てきて、角膜の先端部分が薄くなり脆<sup>もろ</sup>くなります。これによって、乱視が進んだ結果、見えにくくなったのではないかと思います」

5

① 北見先生の声は、これまでにないほど厳しかった。

先生は、声を発しない玉置さんが、感情を抑え理解できるように一呼吸おいて様子を窺<sup>うかが</sup>い、さらに説明を続けた。先生にとっても辛い説明であることが、僕らスタッフにも伝わってきた。

「このまま、症状が進んだ場合、最悪、失明もあり得ます」

失明。極めて単純で、その先が考えられない状態だ。

10

北見先生の口から、この言葉を聞くのは初めてだった。先生と玉置さんを囲む半暗室の闇が、さっきよりもずっと濃くなったような気がした。北見先生はその一言を言った後、大きく息を吐いてから、玉置さんの反応を窺った。

「失明、私ですか？」

玉置さんは、先生を見た。② なにか明るい材料はないのか、と請うような瞳<sup>こ</sup>だった。

少しずつ、その瞳が熱を帯びてきた。

15

「すぐに、というわけではありません。このまま症状が進んだ最悪の場合です。これから治療を行っていきますので、そうなるか決まっただけではありません。ただ、現状は楽観視できる状態ではないと、私は考えています。通常、円錐角膜にはハードコンタクトレンズを

用いた治療が有効ですが、角膜の状態を見ている限り、その治療法を採用するのは厳しいと思います。まずは、メガネによって日常生活に支障がないように視力を矯正し、角膜の様子を見てハードコンタクトレンズの治療に移行できればと思います」

玉置さんの頬は上気し、瞳も潤んでいる。冷静に、話を聞いているようには思えない。

無理もない。思ってもみなかったほど自分の目がひどい状態であることを冷静に伝えられたのだ。丘本さんも泣きそうだ。だが、玉置さんの次の一言は、僕らの同情を一瞬でかき消してしまった。正確に言えば、僕は玉置さんの次の一言の理由も意味も理解できなかった。

「では……、私はいつから、カラコンが使えるようになりますか？」

その後、目に痛みが走ったのか、玉置さんは強く目をこすった。北見先生は驚いてそれを制止した。全員が一気に、声をあげたので、彼女は肩を強張らせた。

「強く目をこすらないようにしてください」

先生は、厳しく注意した。角膜に傷が入っている今の状態で激しく目をこするのは、間違いない。禁忌だ。彼女はゆっくりと手を膝の上に戻した。また、彼女の目が細くなった。

北見先生の視線も鋭さを増した。優しさの裏側にある強い感情が、ただ瞳の中だけに怒りのように込みあげていた。先生は、口を少しだけへんの字に曲げて一呼吸置き、

「今の目の状態でカラコンタクトを使用すれば、失明の危険があります。とても高いリスクを負ってまで使用しなければならぬ理由がありますか」

と、ゆっくりと訊ねた。相手を侮蔑しないように注意深く言葉を発していた。だが、声音はさつきよりも遥かに厳しかった。先生は、自分の感情に耐えていた。丘本さんは狼狽え、僕も込みあげるものを抑えていた。

「目が可愛く見えないから、私、カラコンを着けないと、人前に出られません」

玉置さんは、はっきりとそう言った。なにを言っているんだ？ と反射的に、僕は思った。だが、瞳を覗き込んでみると、玉置さんもまた信じられないほど真剣だった。

「カラコンがあると気持ちが悪く落ち着くんです。私は大丈夫って感じられます。着けていないと不安で人と目を合わすことも、まっすぐなにかを見ることができません。どうにかならないのでしょうか」

そう言ったあと、彼女の目が輝き始めた。沈黙の重さと同じくらい鈍い光が強くなると、涙が零れた。それは傷ついた瞳が流す痛みのみようだった。

④ 彼女の問いに対して、僕らには打つ手が無い。僕らは眼を治療することはできる。けれども、誰かの心を治すことはできない。彼女は明らかにカラコンに依存いぞんしていた。カラコンを着けた瞳で世界に接することによって、自分自身のイメージを作り出し守っていた。

45 自己のイメージを作りあげて、なりたい自分になり、世界に向き合うことは、自然なことなのかも知れない。好きな服を着ることを誰も病気だとは言わないし、化粧をすることを病気だとは思わない。カラーコンタクトを使用することも、誰かにとやかく言われるようなものではないのかも知れない。実際に、玉置さんのカラコンの使い方の問題がなく、円錐角膜でなければ、これほど厳しく注意されることもなかっただろう。

彼女の立場に立てば、僕らの伝えていることは、不条理ふじょうりで不快なものだろう。

だが、彼女の目は、いま円錐角膜という病気にかかっている。その上、深く傷ついている。病気になっている箇所箇所に怪我が重なっている状態だ。その認識が彼女の中に生まれていないのだろうか？

50 傍そばに立っている丘本さんの顔が青ざめていくのが分かった。玉置さんの表情は、僕らの沈黙に対して憤りいきどお、見る間に上気していった。僕らはきつとお互いに理解が足りなかったのだろう。一對の目を巡る僕らの懸け橋となるものはなにもなかった。ただそこには失明の可能性という事実と玉置さんの抱える心の闇があった。

どうすればいい？

その場にいた誰もがそう考えていたのに、言葉はなかった。ただお互いの距離を感じていただけだった。

55 北見先生が、諦めあきらかけた口調で「では……」と口を開こうとしたとき、丘本さんが声を発した。

「遥香ちゃんー」

と、響くような声で言った。玉置さんが、丘本さんをまっすぐ見た。

「真衣ちゃん……」

と、玉置さんはなにかに気付いたように答えた。

60 「遥香ちゃん、目が見えなくなっちゃったら、もう一緒に同じ写真を見れなくなるよ。二人で一緒に作品を作れなくなるよ。今なら遥香ちゃんは、これからを選べるんだよ。今だけじゃなく未来を見て。見ないを選んじゃ駄目だめだよ。どうしてそれが分からないの？ 先生がこんなに厳しく言うなんて、すごく危ないってことなんだよ」

玉置さんはなにも答えなかった。彼女の瞳は、それでも現実に抗<sup>あらが</sup>っていた。彼女は僕らを見ながらも目を逸<sup>そ</sup>らそうとし続けていた。玉置さんが光を失うか、それとも保持し続けるかという岐路<sup>きろ</sup>が彼女の前に開かれているようでもあった。丘本さんは必死に言葉を継いだ。

⑤「北見先生、彼女は私の友達です。だから私からきちんと行って聞かせます。どうかよろしくお願いします」

と、頭を下げた。玉置さんはその様子を呆然<sup>ぼうぜん</sup>と眺めていた。

丘本さんの瞳は、言葉にならない感情で震え、溢<sup>あふ</sup>れ出てくる気持ちに耐えていた。北見先生は二人を眺めた後、小さく息を吐き、少しだけ瞳を閉じた。それから瞼<sup>まぶた</sup>をあげた。先生はさつきよりも穏やかに話し始めた。

「あなたは……、お若いからまだ分からないかも知れませんが、健康であるということは、目が、光が、当たり前のように見えるということは、奇跡のようなものです。あなたは、それを偶然生まれたときから与えられているから、その大切さに気付かないだけです。けれども、一度、失われれば、どんなにお金を積んでも、どんなに請い願っても、もう二度と与えられることはないものです。それが、失われたからその大切さに気付くよりも、いまここで、その大切さに気付いてくれれば、丘本さんも、私たちも、あなたを囲む周りの方々も、誰よりあなた自身も辛く哀<sup>かな</sup>しい思いをしなくて済むでしょう。私も、あなたが傷ついた姿でここに通ってくるのを見ずに済みます。私の言っていることは、分かりますか？」

玉置さんはうつむいて、涙を落としていた。

「カラコンはもう着けられないということですか」

と、玉置さんは震える声で言った。北見先生は首を振った。それから、

「あなたがカラーコンタクトを使用することを、止めることはできません。ただ、いまは少なくとも治療に専念すべきだと申しあげています」

と、はっきりと言った。玉置さんはしぶしぶ頷<sup>うなず</sup>いた。⑥「頷かざるを得ない言葉を、呑み下すようにうつむいていた。」

僕は玉置さんを見ていた。そして、北見先生を見ていた。人が向かい合うことの意味をじっと見ていた。

問一 波線部①～③の本文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

① 禁忌

- 1 不吉であるので止められていること。
- 2 宗教的に良くないとされていること。
- 3 民族の習慣として好ましくないこと。
- 4 行動を避けてしないようにすること。

② への字に曲げて

- 1 不安な気持ちを表すこと。
- 2 不快な気持ちを表すこと。
- 3 不誠実な対応を示すこと。
- 4 不仲な状況を示すこと。

③ 侮蔑

- 1 強い態度で非難すること。
- 2 ひどく嫌って無視すること。
- 3 あなどって軽く見ること。
- 4 馬鹿にして相手にしないこと。

問二 傍線部①「北見先生の声は、これまでにないほど厳しかった」とありますが、北見先生の態度の説明として最も適当なものを次の中から  
選び、番号で答えなさい。

- 1 眼の状態がとても危険であることについて患者のことを深く心配している。
- 2 病状が深刻化するまで眼を大事にしなかった患者を強く非難している。
- 3 自分の体のことを全く理解しようとしないう患者に対していらだっている。
- 4 いつまでも「カラコン」の使用にこだわっている患者にあきれている。

問三 傍線部②「なにか明るい材料はないのか」と請うような瞳だった」とありますが、玉置さんの様子の説明として最も適当なものを次の中から  
から選び、番号で答えなさい。

- 1 どんなにつらい思いをしても、失明だけは避けたいと必死で救いを求めている。
- 2 病気が深刻な状況にならなくて済むような、良い要素がないかと探っている。
- 3 病気の話ばかりでなく、患者の気持ちを楽にする話はないのかと思っている。
- 4 失明をしなくて済むような、最先端の治療法や薬がないのかと詰め寄っている。

問四 傍線部③『では……、私はいつから、カラコンが使えるようになりますか？』とありますが、玉置さんが「カラコン」の使用にこだわ  
るのはなぜですか。その理由が示された四十五字程度の一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問五 傍線部④「彼女の問いに對して、僕らには打つ手がない」とありますが、その理由を説明した次の文の空欄に当てはまる語句を、本文中から十一字で抜き出して書きなさい。

眼を治療することはできても、( ) ( )まで治療することができないから。

問六 この文章は「僕」の視点で描かれています。63行目までの場面において、「僕」の目には登場人物たちはどのように映っていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 患者が抱えている問題を全く理解しようとしないうで、一方的に「カラコン」の使用を禁じる北見先生と丘本さんに対して、玉置さんは強い嫌悪感を抱いている。
- 2 病氣のことを深刻に考えず、自分の考えを曲げずに興奮している玉置さんに対して、経験豊富な北見先生は別の日に再度説明して患者の考えを変えようとしている。
- 3 患者のことを心配して「カラコン」の使用を禁じる北見先生の思いを理解しようとしないう玉置さんに対して、丘本さんは強い危機感のもと必死な思いをぶつけている。
- 4 病氣を心配している北見先生と丘本さんに対して深く感謝しながらも、玉置さんは失明をするかもしれないという過酷な現実から何とかして逃れたいと考えている。

問七

傍線部⑤ 『北見先生、彼女は私の友達です。だから私からきちんと聞いて聞かせます。どうかよろしくお願いします』とありますが、丘本さんがこのような発言をした理由として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の置かれている状況を深く受け止め切れていない玉置さんを救いたいという強い思いがあり、北見先生にこれからも彼女の面倒を見てほしいと願っているから。
- 2 北見先生の治療を放棄しようとしている玉置さんを自分が説得するので、彼女の病気が完全に治るように自分と協力をして全力で治療してほしいと頼みたいから。
- 3 北見先生からの忠告を聞き入れようとしないう玉置さんの無礼な態度を改めさせる約束をすることによって、北見先生の機嫌を取り戻そうと必死になっているから。
- 4 周囲の人の意見が聞けないほど冷静さを失っている玉置さんへの治療を自分が責任を持って行うことに対して、北見先生に許可を求めようとしているから。

問八

傍線部⑥ 「頷かざるを得ない言葉を、呑み下すようにうつむいていた」とありますが、玉置さんの様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 「カラコン」を着けて生活するという考えを決して変える気はないが、強い信頼を寄せている北見先生からの助言を無視することができずに深く思い悩んでいる。
- 2 閉ざされた診察室の中で、「カラコン」の使用禁止を北見先生から一方的に強制されて、一度は抵抗を試みたものの、これ以上の抵抗はできないと諦めている。
- 3 「カラコン」を外して生活することに抵抗を感じるが、北見先生の健康に対する熱い思いや友人の丘本さんの思いを深く受け止めて必死に理解しようと努めている。
- 4 北見先生から健康の大切さを語られ、十分に納得はしてはいないものの、治療に専念するために「カラコン」の使用を一時的に諦めなければならぬと考えている。

三

次の文章は、『大鏡』の一節である。書の達人として有名な藤原佐理は、大宰府（今の福岡県にある役所）での仕事の任期を終えて、船で都（現在の京都府）へ戻る途中である。これを読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、表記を改めたところがある。）

(注一)

(注二)

(注三)

(佐理は)任はてて上られけるに、伊予国いよのくにのまへなる泊まりとどまりにて、日いみじう荒れあ、海のおもてあしくて、風おそろしく吹きなどするを、少しなほりて出でむとしたまへば、また同じやうになりぬ。かくのみつつ日頃過ひじょうすぐれば、いとあやしく思おぼして、もの問ひたまへば、「神の御たたり」とのみ言ふに、さるべきこともなし。いかなることにかと、怖おそれたまひける夢に見えたまひけるやう、いみじうけだかきさましたる男おとこのおはして、「この日の荒れて、日頃ここに経たまふは、おのれがしはべることなり。よろづの社やしろに額がくのかかりたるに、おのれがもとにし

④ 日頃ここに経たまふは、

(注四)

もなきがあしければ、かけむと思おもふに、なべての手して書かせむがわるくはべれば、われに書かせたてまつらむと思おもふにより、この折ひらではいつかはとて、とどめたてまつりたるなり」とのたまふに、「たれとか申す」と問ひ申したまへば、「この浦の三島みしまにはべる翁おきななり」

⑦ かけむと

① なべての手して書かせむがわるくはべれば、

⑤ われに書かせたてまつらむと思ふにより、

② この折

とのたまふに、夢のうちにもいみじうかしこまり申すと思おもすに、おどろきたまひて、またさらにもいはず。

① のたまふに、

⑦ 問ひ申したまへば、

(注七)

⑥ またさらにもいはず。

(『大鏡』から)

(注)

- 1 伊予国 — 今の愛媛県。
- 2 泊まり — 港。
- 3 もの問ひたまへば — 占ってもらいなさると。
- 4 額 — 寺社の門やお堂などにその名を記して高く掲げる扁額へんがくのこと。
- 5 書かせむがわるくはべれば — 仮に書かせるとしても、よろしくないのです。
- 6 われ — あなた。ここでは佐理のこと。
- 7 三島 — 伊予国の大三島にある大山祇神社おおやまつみのこと。

問一 二重傍線部「たまひけるやう」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問二 波線部①く③の口語訳として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

① なべての手して

- |         |          |           |          |
|---------|----------|-----------|----------|
| 4       | 3        | 2         | 1        |
| 珍しい書き方で | 並一通りの手段で | 多くの人手を使って | ありふれた筆跡で |

② この折ならでは

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 4         | 3         | 2         | 1         |
| この場所でなくては | この機会でなくては | この人物でなくては | この季節でなくては |

③ おどろき

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 4   | 3   | 2   | 1   |
| 感動し | 怖がり | 目覚め | 動揺し |

問三 傍線部ア「思ふ」、イ「のたまふ」、ウ「問ひ申したまへ」、エ「思す」のうち、主語が佐理であるものの組み合わせとして正しいものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ア・イ  
2 イ・ウ  
3 ウ・エ  
4 ア・エ

問四 傍線部①「同じやうになりぬ」とありますが、本文中でその具体的な内容が書かれている部分として、最も適当なものを次の中から選び、

番号で答えなさい。

- 1 日いみじう荒れ、海のおもてあしくて
- 2 日いみじう荒れ、海のおもてあしくて、風おそろしく吹きなどする
- 3 海のおもてあしくて、風おそろしく吹きなどする
- 4 風おそろしく吹きなどするを、少しなほりて

問五 傍線部②「いとあやしく思して」とありますが、なぜ「あやしく」思ったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、

番号で答えなさい。

- 1 修理に出したばかりの船が出発しようとするときまた壊れてしまい出発できなかったから。
- 2 帰京しようとしたところ、伊予の国から乗るはずの船がいつまでも到着しなかったから。
- 3 これまでずっと天気が良かったのに、急に波が高くなり船が出せなくなってしまったから。
- 4 船で京都に戻ろうとしたところ、少し天気が回復したと思ったらまた悪天候になったから。

問六 傍線部③「さるべきこともなし」とは、「そのようなことはあるはずがない」という意味ですが、「そのようなこと」とは何を指している

のですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部④「日頃ここに経たまふは」とありますが、「ここ」とはどこを指していますか。本文中から十一字で抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑤「われに書かせたてまつらむと思ふにより」とありますが、なぜ佐理に書かせようとしたのですか。その理由として最も適当な

ものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 他の神社には額があるのに、自分の神社にはないのが不都合なので、書の名手である佐理に額の字を書いてほしかったから。
- 2 他の神社に立派な額があることがうらやましいので、額の字を書くのにふさわしい人物を占った結果、佐理が選ばれたから。
- 3 天気を悪くして旅路の邪魔をしたおわびに、自分の神社の額の字を書かせることで、佐理の名声を高めてあげようと思ったから。
- 4 勝手に海を通ろうとする佐理たちに腹を立てて邪魔をしたが、佐理たちが通行料代わりに額を納めるなら許そうと思ったから。

問九 傍線部⑥「またさらにもいはず」とは、「改めて言うまでもない」という意味ですが、どのようなことを指していますか。その説明として

最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 神の願いをお引き受けし、額を書き直したこと。
- 2 夢の中の出来事を誰にも言わなかったこと。
- 3 神の願いをつつしんでお引き受けしたこと。
- 4 神のお告げを授けたのが三島の翁であったこと。

問十 本文の内容と合致しているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 占ってもらったところ、佐理の前世の行いに大きな問題があることが分かった。
- 2 船を出すことができたのは、佐理が神の前で前世の罪をつぐなったからだだった。
- 3 佐理が神だと思っていたのは、三島に住んでいるただの漁師にすぎなかった。
- 4 佐理が船で帰京しようとしたところ、港から船を出すことができなかった。

